

Ⓞ TOYO GOSEI

CSRレポート

TOYO GOSEI
Corporate
Social
Responsibility

2016



人類文明の成長を支えるため、人々の幸せな毎日のため、 経営理念の実現を目指して事業を推進してまいります。

当社では、環境保全活動を経営の重要課題の1つと位置づけ、2004年より「環境レポート」を作成してまいりました。今回、環境保全活動だけでなく、経営理念の実現に向けた多角的な取り組みについて、包括した形で情報を発信していくため、「CSR（企業の社会的責任）レポート」として、内容を拡充させることにいたしました。

当社は、「人類文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるために成長する」ことを経営理念としています。この理念には、戦後の資源に乏しい日本において、付加価値を創造する産業を興して社会に貢献し、ひいては人類文明の成長を支えていこうという創業者の志があります。創業から60年経った今でも、人々が夢をもって幸せに働くことができる環境を作ること、世の中の人々の役に立つものを作り人類の豊さに寄与すること、さらには事業を通して世界経済の発展に寄与することを目指して事業を推進しています。これらの創業当時から受け継がれている不変の考え方が、当社のCSR活動の基礎となっています。

CSR活動を進める上で、当社は大きく3つの観点で社会的責任を果たすことが必要だと考えています。まず、化学メーカーとして安全を確保し、環境に配慮して事業を推進する責任です。特に安全に関しては、経営方針の第1に「安全操業を最優先し、社員、協力会社社員、地域住民など関係者の安心できる操業環境を確保する」ことを掲げ、最重要事項として、有用な製品を安全にかつ継続的に提供するための取り組みを進めています。

環境については、地球の成長の限界が叫ばれて久しい今、化学物質を取り扱う企業として全ての業務プロセスにおいて環境に配慮し、人々や環境にとって持続可能な製品を開発していく使命があると考え、取り組みを進めています。これら安全と環境への取り組みについては、特に、工場周辺地域への配慮を基本とし、地域住民の皆さまへの迅速かつ透明性の高い情報開示を重視しています。

2つ目に、日本の成長の一躍を担う素材産業としての責任です。当社の位置する日本の素材産業とは、過去に国際競争力を失った産業が多い中、強い顧客基盤と技術力をもとに競争力を維持し続けてきた数少ない産業の1つです。しかし同時に、新興国の追従などにより、我々日本の素材産業は変革の時にあります。今後も拡大していくことが見込まれる素材産業の世界的な需要を確保し続けるため、日本特有の課題に取り組み、国際的な競争力を高める必要があります。この実現には、高付加価値を創出するための研究開発はもとより、適正な労働環境の確保、女性活躍の場づくり、国際競争力としての人材育成が求められています。さらに、地理的にも地震国であることなどから、事業継続マネジメントを強化していく必要があります。当社もこれらの課題に取り組み、成長を続け、日本の産業を牽引していくことを目指していきます。

特に、当社ではこの数年、将来的な成長を見込んだ企業規模の拡大に合わせて、共に働く仲間が増えています。今後、中長期的な成長を遂げるためには、経営はもちろん、社員一人ひとりが経営理念の実現に向かい、やりがいをもって仕事に取り組むことが必要です。今後も、当社で働く社員が心から幸せであり続け、CSRの観点に基づきモチベーション高く仕事ができるよう、環境を整えていきたいと考えています。

最後は、現代の人々の生活を支える製品を作り出す企業としての責任です。当社の事業は、現代の人類文明への寄与において意義が大きいと考えています。エレクトロニクス分野における最先端製品の原料を製造することは、未来の文明機器の発展を支えていくことです。香料材料の製造も、人々の生活感情を豊かにすることに繋がっています。私たちは、事業を推進していく中でこれらの社会的使命・責任を果たし、経営理念を実現していきます。

これらを実現するためには、社会的責任を果たすとともに、組織としての基礎力を強化し、企業価値を高め、成長を維持する必要があります。健全な企業経営の維持を目指してコーポレートガバナンス体制を一層強化し、お客さま、株主、社員、地域社会などそれぞれのステークホルダーとの信頼関係を構築することで、さらなる企業価値の向上を図ってまいります。

これからも、人類文明の成長を支えるため、人々の幸せな毎日のため、経営理念の実現を目指して事業を推進してまいります。皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。



2016年
東洋合成工業株式会社 代表取締役社長

木村 有仁

皆さんの暮らしの中には、東洋合成工業の製品・サービスが活かされています。

パソコンやスマートフォンなどの電子機器、省エネルギーに役立つ蓄電池やLED照明、医療の発展に向けた研究開発などへ…皆さんの安心・便利・快適な



毎日を支える製品を提供し続けるよう、「東洋合成工業」は歩みを進めています。





東洋合成工業では、
経営の透明性を高めることが重要と認識し、
コーポレートガバナンスの整備を図っています

東洋合成工業は、人類文明の成長のために、独創的な科学技術力によって、新たな価値を生み出し、それを広く社会へ提供することで貢献し成長していくことを理念としています。

このような理念のもと、株主をはじめとする社会の多様なステークホルダーとの適切な関係を維持しつつ、企業価値・株主価値の向上を図るために必要となる、透明性の高い公正な経営システムを構築・持続することが重要であると考えています。

コーポレートガバナンス

取締役会

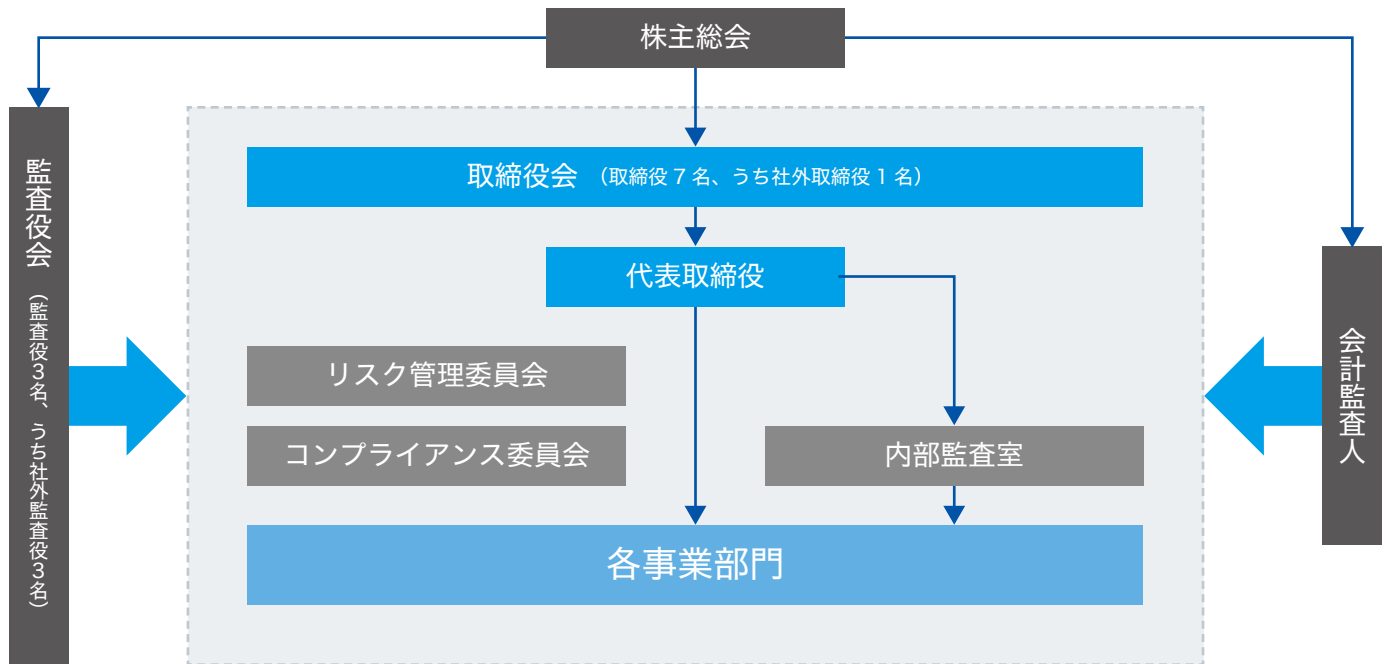
取締役会は、取締役7名（うち、社外取締役1名）で構成されています。取締役の責任明確化と経営環境の変化に迅速・柔軟に対応するため、2002年より取締役の任期を1年としました。また、これまで以上に幅広い視点から取締役の活動を監督し、経営の透明性・客観性を一層高めること、及びコーポレートガバナンス体制の強化を図ることを目的として、独立社外取締役を1名選任しています。加えて、業務執行機能のさらなる強化と意思決定の迅速化に向け、2006年より執行役員制度を導入しています。

監査役会

監査役会は監査役3名（うち、社外監査役3名）で構成されており、経営の透明性や経営監視機能の客観性・中立性を確保するために取締役会から完全に独立しています。各監査役は、監査役会規定に準拠して、監査の方針・職務の分担などに従い、取締役会、経営会議、その他の重要な会議に出席しているほか、取締役などから職務執行状況について報告を受け、取締役の職務執行を監査しています。また、会計に関しては、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、監査の方法及び結果の相当性を確認しています。

内部監査

代表取締役社長直轄の内部監査室（内部監査室員3名）を設置しており、業務活動に係る内部監査に加え、財務報告に係る内部統制システムの有効性の評価を通じて継続的改善のための指摘、提言、助言を行っています。



コンプライアンス

全役職員一人ひとりが法令や社内規定、社会規範などを遵守した行動ができるよう、コンプライアンスの徹底に努めています。

コンプライアンス推進体制

ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を維持していくことが、社会と共存する企業として持続的に発展していくための基礎になるとの認識から、コンプライアンス体制の充実に努めています。コンプライアンス委員会主導のもと、各部署において啓蒙教育・徹底活動などを行い、全員参加によるコンプライアンス推進活動を実施しています。

内部通報制度

通報者保護のため、社内ルート（コンプライアンス事務局）に加え、社外ルート（顧問弁護士ルート）を設けることにより、状況に応じて通報先を選択できるよう便宜を図るとともに、内部通報した際には、不正な目的で行った場合を除き、これを理由として解雇のほか不利益な扱いをしない方針を明確にしています。

公正な取引に向けて（下請法の遵守）

下請法（下請代金支払遅延等防止法）の順守を徹底するため、定期的取引先の資本金、支払い条件などを調査し、各取引が下請法に抵触していないことを確認しています。また、社内教育の実施や外部講習の受講などを通じて購買担当者的下請法に関する理解を深めると共に、関係部門の啓蒙活動にも取り組んでいます。

反社会的勢力の排除に向けた取り組み

反社会的勢力の排除に向け、平素より警察等の関係者との間で意思疎通を図るなどして緊密な連携関係の構築に努めるとともに、反社会的勢力の動向に関する情報の収集などに努めています。また、反社会的勢力との関係断絶に関して、「コンプライアンス規定」に定めて当社社員全員にこれらを周知するほか、取引先等と締結する各種取引基本契約書の契約書面に暴力団排除条項を加えています。

リスクマネジメント

企業を取り巻く複雑かつ多様なリスクへの適切な対応は企業経営の根幹です。東洋合成工業では、潜在的なリスクの発見・予防から、重大危機に即応できる体制までを整備・維持しています。

東洋合成工業を取り巻く様々なリスクの発生を未然に防止するとともに、経営に及ぼす損害を最小限に食い止めるため、リスク要素の提言及び未然防止を主としたリスク管理の強化を図っています。また、緊急事態発生時の被害軽減及び早期復旧を図るための危機管理体制を整えています。

リスクマネジメント体制

経営に重大な影響を及ぼすリスクに的確に対処することが、当社の持続的な発展に不可欠であるとの考えから、社長、各事業部長、及び主要部門長から構成される「リスク管理委員会」を設置しています。また、その下に「経営リスク」「業務プロセス」「IT」「環境安全」の各分野を重点的に検討する専門部会を設けて、重大な結果をもたらすリスクの特定や、当該リスクの分析及び対策内容の決定・対策の実行ならびに評価などのリスクマネジメントを実施し、平時の予防措置を講じています。

事業継続計画（BCP）

▶ 事業継続マネジメントはP.6をご覧ください

事業継続・保安防災に関する取り組み

Business Continuity, Security and Disaster Prevention Initiatives



東洋合成工業では、当社の事業を中断させないことがステークホルダーの皆様への最大の貢献であると認識し、事業継続に関する取り組みの強化を図っています

事業継続マネジメント

BCM基本方針

人命の尊重

全従業員とその家族ならびに近隣社会、お客様その他全ての関係者の生命および身体の安全確保を最優先します。

拡大防止

二次災害(会社施設の火災や環境汚染等)の発生防止に努めます。

重要業務の継続・早期復旧

社会的に有用な企業として、重要業務を可能な限り継続、または停止した場合でも早期の復旧を目指します。

地域貢献

社会から信頼される企業として、地域住民や周辺自治体との協調に努めます。

事業継続マネジメントの実施

ステークホルダーに信頼される、リスクに強い企業を目指し、事業継続計画を常に見直し、改善に努めます。

東日本大震災

2011年3月11日に発生した東日本大震災ではその影響が実際に被災した工場をもつ企業だけではなく、その影響が全世界の生産活動に及びました。当社のフォトレジスト用感光材に代表される製品を生産している当社の事業中断も同様に、多くのステークホルダー（利害関係者：取引先、投資家、地域住民など）に影響をもたらします。

ISO22301認証取得

化学製品を製造する我々はいまや従来からの「人命保護、資産保護」を目的とした防災対策では、今日求められる「重要な製品及びサービスの継続」といった目的を達成するには不十分と考え、先進的な取り組みとして事業継続を目的とした英国規格協会が発行するマネジメントシステムBS25999を2012年9月に取得しました。東日本大震災により、事業継続への要請は世界的な潮流となり、2012年5月に国際標準規格ISO22301が発行され、当社は2013年に同規格の認証を得ました。



ISO22301認証票

事業継続計画 (BCP)

「重要な製品及びサービスに影響を与えるインシデント（事業継続に障害を与える災害や事故など）」が起きたときに、重要な事業を支える重要な活動を継続する、もしくはできるだけ早期に復旧することが必要です。当社はインシデントが発生した際に、その影響を軽減し、事業の復旧を速やかに遂行するための事業継続計画 (Business Continuity Plan) を策定し、演習・訓練を行っています。また、平時から事業場内の機器を分析し、その重要度に応じて部品や機器のバックアップの準備、代替機器の選定などの取り組みを行っています。

防災格付け

この取り組みがあらゆる災害や危機時の環境変化に高い適応力があると認められ、2011年12月、日本政策投資銀行の「防災格付」において「防災及び事業継続への取り組みが特に優れている」との高い評価を受け、化学メーカーとして初の適用融資が実施されました。この評価は毎年、継続的に実施されています。



日本政策投資銀行 防災格付認定票

防災

防災組織

市川工場、千葉工場、香料工場、淡路工場、高浜油槽所の各事業所では自衛消防隊を組織し、緊急時に備えて事業所の特性に応じた各種訓練を定期的実施しています。



千葉工場 放水訓練



香料工場 放水訓練

東洋合成工業では、
人々や環境にとって持続可能で社会に役立つ高い
付加価値を持った製品をお客様に提供するため、
独自の研究開発と化学物質管理を進めています



品質マネジメント

市川工場・香料工場

製品開発から納品後の品質保証まで品質マネジメントシステムの継続的改善を通して、お客様に信頼してお使いいただける製品の安定供給を実現しています。

お客様からの要望や新製品が多い電子材料グレードの溶剤は、金属含有量をppt（一兆分の一）の単位で管理するために、製造工程から容器充填まで細心の注意を払っているとともに、信頼性の高い分析技術を開発し、現在は10pptの含有量を正確に分析して報告できる様になっています。

また、香料材料製品は分析機器だけで品質の良し悪しを判断するのではなく、匂いの合否判定ができるパネラーを育成し、人が品質を最終判定することで、常に同じ匂いを表現できる安定した品質の製品を供給しています。

今後も、お客様からのフィードバックを製品の開発・改善活動に反映させて、ステークホルダーの期待に応えることができる様、努めてまいります。

千葉工場

感光材製品は半導体の製造プロセスで使われており、半導体の用途はスマートフォン、パソコン、液晶ディスプレイ、車載用にと実に多様、求められる性能も違うので、感光材製品の種類もとても多彩です。

微細な構造物・配線を何百工程というプロセスで作成するため、お客様での不具合が発生すると影響が大きく、わずかな品質の違い、普段の検査では見えない品質の違いは、潜在リスクとして極力排除することが必要です。

一度決まったら「いつも変わらぬ品質・作り方」が求められ、製品品質は勿論、製造工程の条件パラメーターもモニターして常に一定に管理することが常識になっています。

当社にしか作れない製品も多く、またオリジナルの新製品開発を進めたいお客様にとっては、「東洋合成ならば安心」と信頼いただける、サステナブル（持続可能）な品質保証が不可欠です。

これらに応える当社の最重要項目は安全な操業であり、加えて、より高度な製造・管理技術の確立、新製品開発力の向上、原料調達・サプライヤー管理の強化、法令順守、そして若い人材の育成を重要な課題として、安定で継続的な製品の供給と開発協力の実現を目指しています。

近年、お客様からの評価でベストサプライヤー賞をいただき、改善活動の励みになっています。私達の感光材製品の魅力は、最先端の要望に応える厳格で安定した品質管理と開発体制、それを実現していく品質・環境マネジメントシステムの運営にあると考えています。

全社のCSR活動と一体となり、当社の経営理念「人類文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるために成長する」を実践してまいります。

淡路工場

私たちが提供できる製品・サービスは、まず営業が窓口になり顧客のニーズをしっかりと掴むことから始まります。この段階を踏み外すと仕事が受託できないばかりか、顧客に対してご迷惑をお掛けしてしまいます。ニーズを正確に掴んだ上でラボ・実機を用いた試作を行い、現物と数値（分析値など）で顧客の期待に込んでいるかをご評価して頂いています。また工場の品質管理体制や生産設備の状況を観て頂き、我々が提供できる製品・サービスを正確に理解して頂いています。

仕事を受託し取り引きが始まった後に、工程に変更が生じる場合があります。工程に変更が生じる場合、作業現場で勝手に変更してはならず、工程変更の手続きを必ず行います。工程変更の項目は様々あり、一例を上げますと納入仕様書に定められている事項の変更、予め顧客と定めた工程変更対象の変更があります。品質異常は工程変更の際に起こると認識し、作業現場にも工程変更がある際には事前に報告するよう周知徹底しています。

またサプライヤーの管理ですが、品質管理体制やコンプライアンス・安全への取り組みなどを現地に赴き監査しています。評価を行い評価点数が低いほど監査頻度を多くするといった基準を設けています。特にコンプライアンス・法令順守は企業経営の根幹になるので、注意深く確認すると共に徹底遵守するよう要請しています。

輸出管理

当社の製造する製品の中には最先端の技術を有し、安全保障貿易管理上の規制を受けるものがあります。当社では経済産業省に承認された輸出管理規定を定め、社長を責任者とする全社体制を構築し、適正な輸出管理に努めています。

※ 安全保障貿易管理とは：我が国をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、我が国及び国際社会の安全性を脅かす国家やテロリスト等、懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防ぐため、先進国を中心とした国際的な枠組み（国際輸出管理レジーム）を作り、国際社会と協調して輸出等の管理を行っています。

物流安全

SDS

東洋合成工業では、当社が生産しているすべての製品について、その製品を使用されるお客様の国の法規制に対応するSDS*を作成し提供しています。

※ SDS：安全データシート（Safety Data Sheet）の略語です。化学物質の物理化学的性質や危険性・有害性及び取扱いに関する情報を化学物質等を譲渡または提供する相手方に提供するための文書です。

イエローカード

東洋合成工業では、製品輸送中の事故など不足の事態に備えて、緊急時の措置方法や連絡先などを記載したカードを作成し、輸送するタンクローリーなどの運転手に配布しています。

化学物質の管理

化成品事業部

化学物質の登録・評価・許可・制限に関する規則（REACH）が2007年6月1日に発効しました。REACH 規則の目的は、「人の健康と環境の保護」、「EU化学産業の競争力の維持向上」などであり、化学物質のほとんどすべてを対象とした化学物質総合管理の新体制を構築するための規則となります。

この規則では、1企業につき年間1トン以上の量をEU域内において製造および輸入する化学物質について、欧州化学品庁（ECHA）に登録することが義務付けられています。

当社は本規則を順守しており、これまでにEU域内へ販売している製品のうち3物質の本登録を実施しました。今後は、予備登録した残りの約40物質の対応スケジュールを作成してありますので、登録最終期限「2018年5月31日」までに必要な物質の本登録を確実に実施していく予定です。

感光材事業部

東洋合成工業では、お客様に新しい価値ある製品を御提案する際に、新規化学物質を取扱う機会があります。新規化学物質は、新たな可能性が期待出来る一方で、人体や環境に対する危険有害性が未知であります。

新規化学物質の製造・販売は、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）、及び労働安全衛生法（安衛法）の遵守が義務であります。新規化学物質の製造は、政府当局に事前に届出の必要があり、加えて確認数量の枠内で製造しなければなりません。

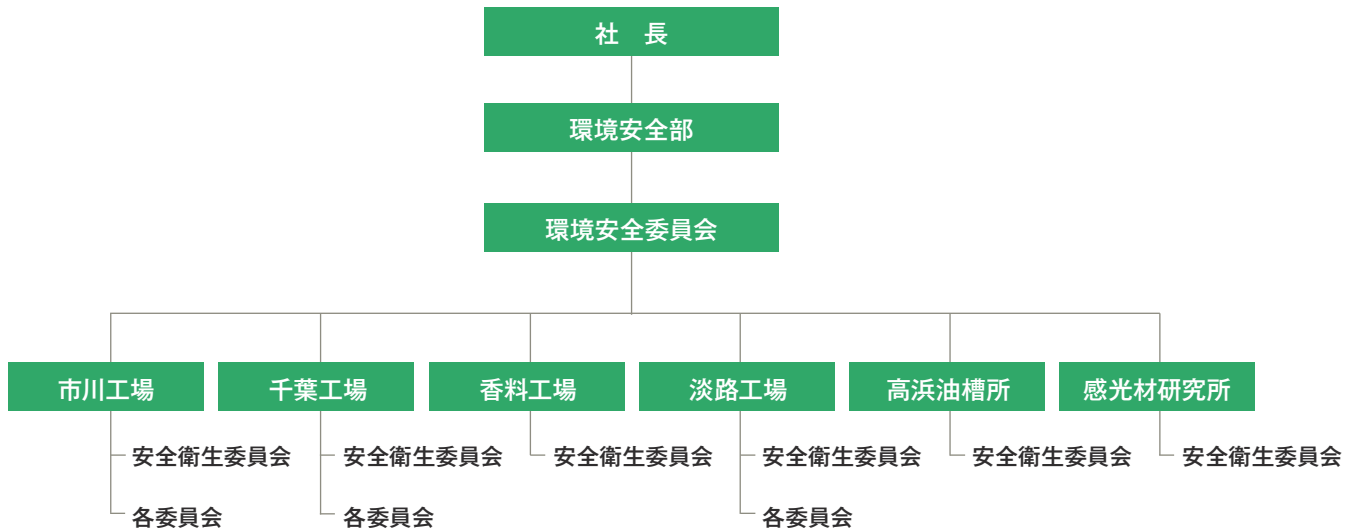
法令遵守を確実にするために、新規化学物質の無届出製造や確認数量枠の逸脱がないか、定期的に検証を行っています。この法令遵守活動を推進することで、新製品の御提案、持続可能な製品供給を支えています。

環境安全に関する取り組み Environment and Security Initiatives

東洋合成工業では、会社で働く人々、地域にお住いの皆様など関係者の安心できる操業環境を確保し、この企業活動での地域社会が負う環境負荷を低減する組みをおこなっています



環境・安全管理の組織



環境方針

東洋合成工業株式会社は電子部品製造用材料の生産、調合香料用材料の生産、化学製品の生産に使う溶剤のリサイクル、液体石油化学品の省エネルギー物流等を通じて社会に貢献します。

私達はこの企業活動で地域社会が負う環境負荷が最も低く抑えられるよう努めます。会社の活動が地球環境の改善に貢献できるように指向します。

目標

環境保全と安全操業を経営の重要課題と位置付け、各事業所は内に向かっては「社員の安全と健康」を、外に向かっては「地域環境の保全」を念頭に企業活動を推進します。

法の遵守

環境保全の諸法令を遵守し、地域の住民の声にも耳を傾けるように全従業員に徹底します。

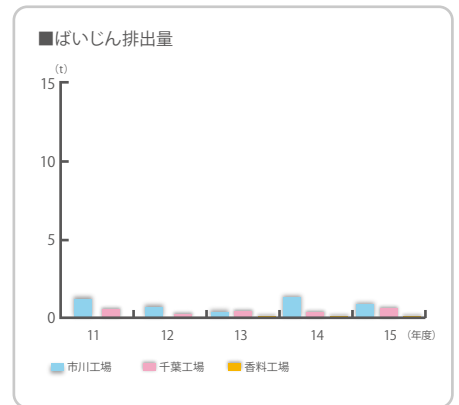
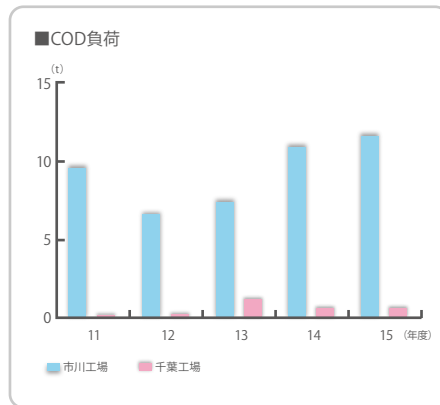
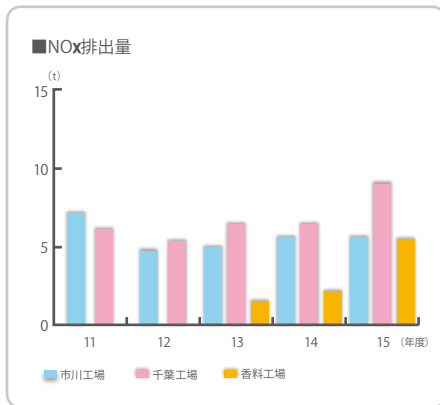
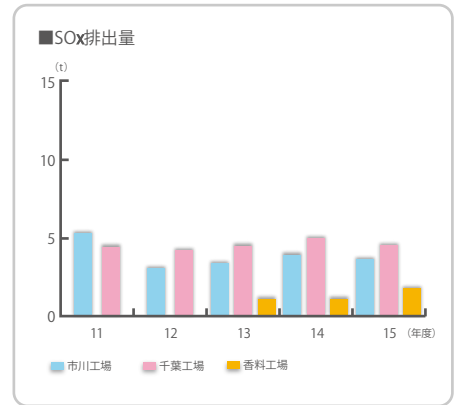
具体的な取り組み

- 1 生産活動の中で、大気、河川に放出する化学物質の低減を最優先課題とし、改善の長期計画を作成しそのプログラムに沿って毎年低減させます。また、環境への負荷、排出量を公表します。
- 2 蒸気、電力の消費を節減し、毎年生産される製品のエネルギー原単位の低減に努めます。
- 3 廃棄物の発生量削減と自社内での無害化処理を促進し、廃棄物の3R (Reduce、Reuse、Recycle) を推進します。
- 4 新規化学物質のみならず、国際的な既存化学物質の安全性見直しに適合するように、再評価を行います。また、試験生産の段階より従業員の健康に及ぼす影響や、環境に及ぼす影響も評価し企業活動に反映させます。

大気・水質

市川工場、千葉工場及び香料工場合計で、SOxは前年度比約5%の増加、NOxは約40%の増加となりました。SOxは、使用する燃料の硫黄含有量にも影響されますが、3工場のA重油使用量が約2%増加したことも影響しています。淡路工場は、ボイラー燃料としてLNGを使用しており、環境への負荷は少なくなっています。

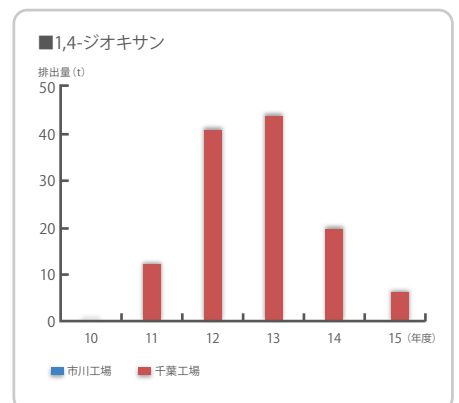
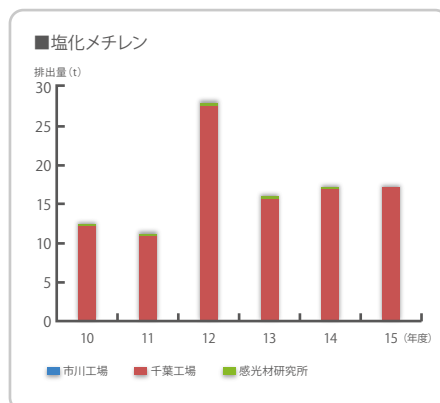
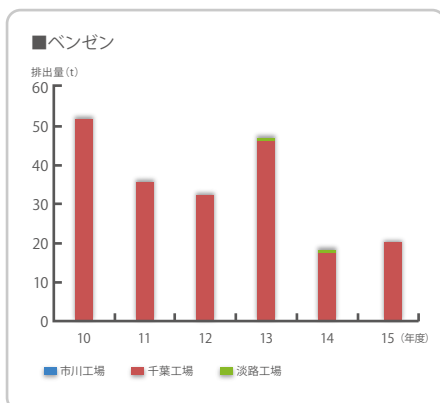
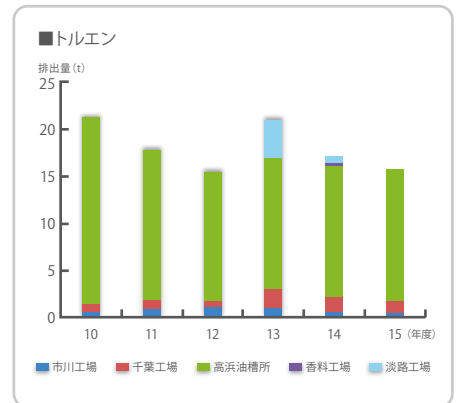
市川工場では、COD負荷は7%増加しました。排水基準値を順守し、廃棄物として外部処理していたものから選別し自社廃水処理場で処理をすることで、産業廃棄物の減量化を進めています。また千葉工場に於いても、TOC計（全有機体炭素計）を導入し、排水処理管理を強化しています。



PRTR

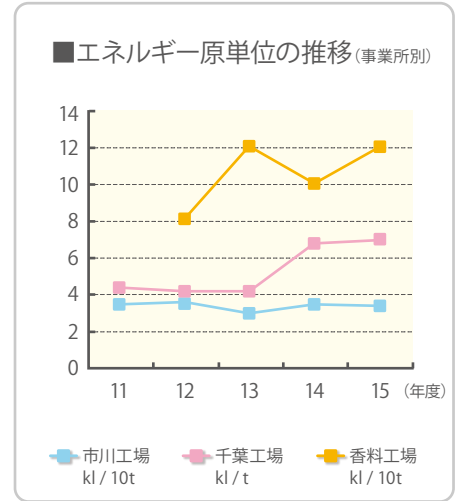
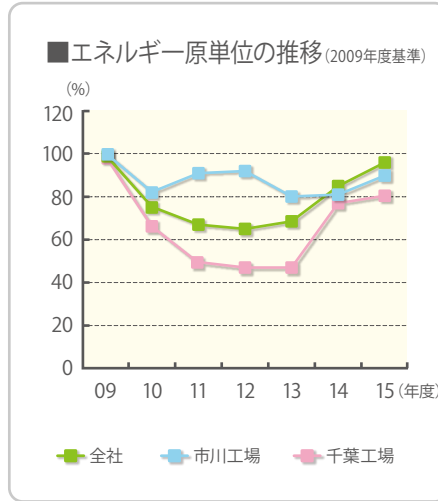
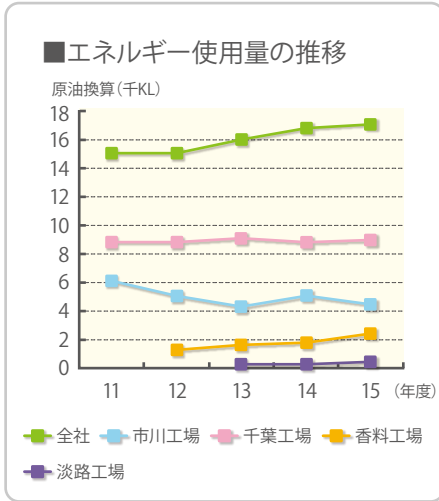
ベンゼンの大気排出量は、前年度比約10%の増加となりました。これは吸着処理装置のPSAとKフィルターを稼働していましたが、Kフィルターの吸着能力の低下がみられ、排出量が増加しました。本年2月に吸着材の更新を行い、現在順調に稼働しています。

また1,4-ジオキサンは、排ガス処理装置として導入したスプレー塔が安定稼働しています。処理の最適化をはかるため、一部改造工事を実施しました。



エネルギー

エネルギー使用量は、全社で2%の増加となりました。特に香料工場が、生産量の増加で前年度比35%の増加となったことが影響しています。またエネルギー原単位は、市川工場は2%改善しましたが千葉工場は4%、香料工場が24%悪化しました。千葉工場は2014年に現像液の生産を中止したことで、香料工場は、中間品の生産が多く、ともにエネルギー原単位の分母となる生産量に影響が出たことが要因となっています。今後も目標である1%以上の改善を目標とし、各種の施策を実施してまいります。



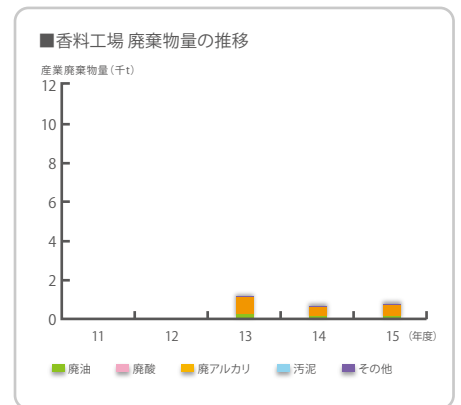
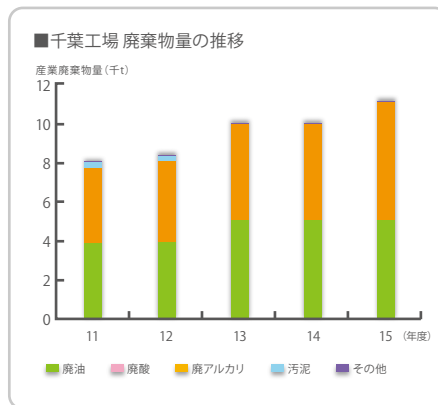
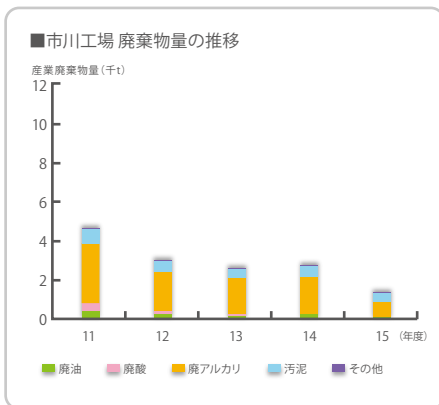
廃棄物および再資源化

廃棄物に関する取り組み

市川工場の廃棄物は、前年度比約50%の減少となりました。生産量の減少も影響していますが、廃油の選別による燃料化では899klの実績となり重油の使用量を削減できました。また、廃液の分別化により、自社廃水処理施設での処理を進めることで、産業廃棄物の削減に努めています。

千葉工場の廃棄物は、前年度比7%の増加となりました。廃アルカリが約20%増加しました。千葉工場では、溶剤回収プロジェクトを継続し、各グループの課題を明確にして、減量化を進めています。

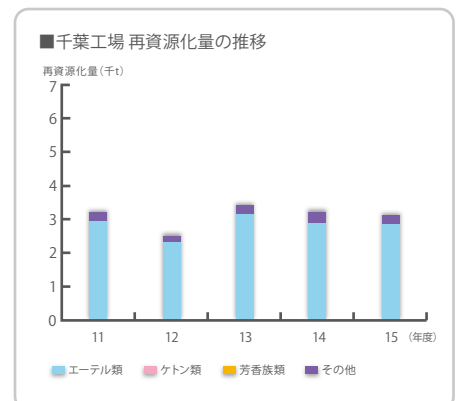
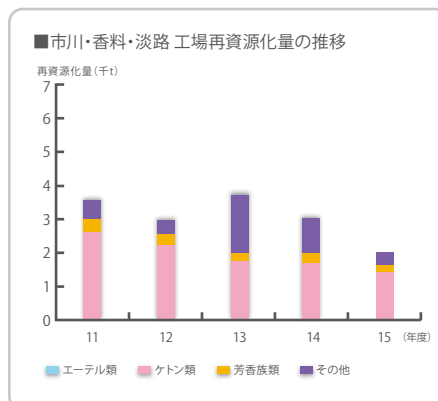
香料工場は、生産量は増加していますが、廃液の分別化を進め、産業廃棄物の削減を図っています。



再資源化への取り組み

市川工場、香料工場、淡路工場の溶剤の再資源化の減少の影響により、3工場合計では、前年度比34%の減少となりました。

千葉工場では、主に工場内で使用した廃溶剤を蒸留精製し、再資源化を行っています。2015年度は、3%減少となりましたが、千葉第1工場の再資源化率は99%以上と、高い回収率で推移しています。



安全方針

東洋合成工業は安全操業を最優先し、会社で働く人々、地域にお住いの皆さまなど、関係者の安心できる操業環境を確保します

- 1 人命尊重の理念の下、必要な社内基準を設け、法令を遵守し、安全で働きやすい職場環境の創造を目指します
- 2 良好なコミュニケーションを社内・社外で展開し、社内外の関係者の安全と健康の確保に貢献します
- 3 「常に安全を優先します」を念頭に、全社員が一丸となって安全衛生活動を推進します
- 4 全従業員がそれぞれの立場で職場に潜む危険源の把握に努め、リスク低減に貢献します

安全活動

OSHMS*

危険物を扱う当社は事故を未然に防止するためにOSHMSを導入し、職場のリスクアセスメントを実施しリスクの低減を図るなどの活動をしています。

* OSHMS とは：労働安全衛生マネジメントシステムの頭文字で、継続的な安全衛生管理を自主的にすすめることにより、労働災害の防止と労働者の健康増進、さらに進んで快適な職場環境を形成し、事業場の安全衛生水準の向上を図ることを目的とした安全衛生管理の仕組みのこと

安全教育

外部の専門家による教育はもちろんのこと、従業員が、安全に関して身近な話題を選択し、自ら学習し講師役を務める学習会を各事業所で定期的実施し、安全知識の底上げを行っています。

静電気講習

産業安全技術協会に依頼し、静電気の専門家を招いて毎年2事業所で講習会を開催し、多くの社員が繰り返し受講しています。



市川工場 静電気講習会1



市川工場 静電気講習会2



千葉工場 静電気講習会1



千葉工場 静電気講習会2

安全パトロール

職場を相互にパトロールすることで他者の目で安全の確認を実施します。パトロールには事業所を超えて行うものや、事業所トップの参画するものなど多様な視点で定期的実施しています。



千葉工場 安全パトロール1



千葉工場 安全パトロール2



高浜油槽所 安全パトロール1



高浜油槽所 安全パトロール2

安全啓蒙活動

当社では社員が自ら調査・企画し、他の社員に安全について教育する活動を「安全啓蒙活動」とし、各事業所で定期的実施しています。

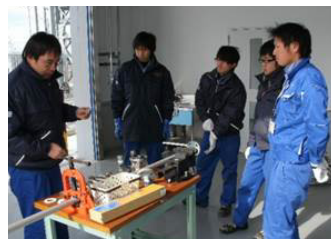
市川工場 担架取り扱い教育



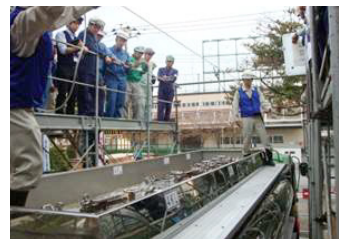
千葉工場 静電気安全教育



香料工場 空気呼吸器取り扱い教育



淡路工場 配管の組立手順教育



高浜油槽所 ローリーのオーバーフロー実演

労働安全衛生に関する取り組み

Occupational Safety and Health Initiatives



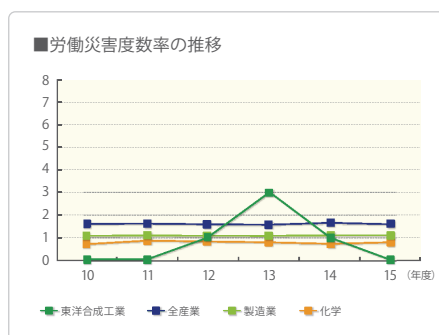
東洋合成工業では、
以下の労働安全衛生方針を掲げ、
日々安全を優先とした事業活動を行っています

労働安全衛生方針

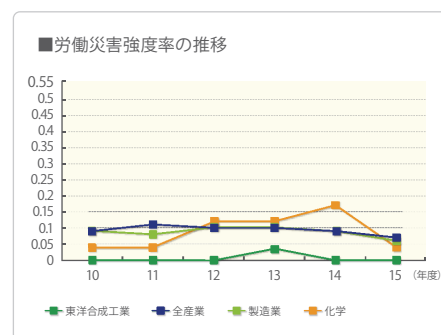
- 1 人命尊重の理念の下、必要な社内基準を設け、法令を遵守し、安全で働きやすい職場環境の創造を目指す。
- 2 良好なコミュニケーションを社内・社外で展開し、社内外の関係者の安全と健康の確保に貢献する。
- 3 「常に安全を優先します」を念頭に、全社員が一丸となって安全衛生活動を推進する。
- 4 全従業員がそれぞれの立場で職場に潜む危険源の把握に努め、リスク低減に貢献する。

労働災害度数率・強度率

本年は、休業災害が0件であったため、度数率・強度率ともにゼロとなりました。休業に至らない小さな災害から無くしていくために、各拠点で積極的な安全活動を推進しています。



労働災害度数率:100万延べ労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表す
労働災害度数率=労働災害による死傷者数÷延労働時間数×1,000,000



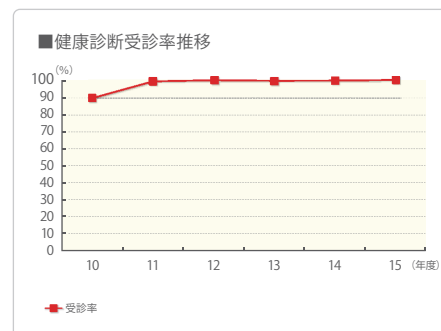
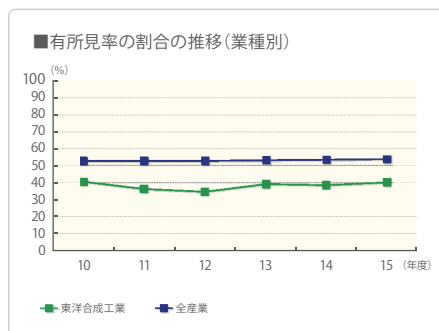
労働災害強度率:1,000延べ労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重さの程度を表す数値
労働災害強度率=労働損失日数÷延労働時間数×1,000

健康管理

昨年に引き続き、健康診断の受診率100%達成に向けて各事業所での法定健診受診を徹底した結果、本年は定期健康受診率100%を達成することが出来ました。

今後も受診率100%継続に向け、従業員個人の受診状況管理及び、健康意識を高める施策を実行します。

また、有所見率については昨年より1.4%増の40.2%となりました。有所見率の低減に向けて、今年度は各個人の健康意識を高める施策を実行すると共に、産業医による積極的な生活習慣病改善指導に取り組んでいく予定です。



労働安全衛生目標

2016年度は、以下の労働安全衛生目標を掲げ、安全・健康を最優先に活動していきます。

全社 労働安全衛生 67期目標

- 1 休業災害「0」を達成する
- 2 リスクアセスメントを実施し、リスクレベルⅣ項目を80%以上削減する
- 3 作業環境測定を実施し、全ての第三管理区分を改善する
- 4 ストレスチェックをすべての従業員が受けることのできる環境を整える

東洋合成工業では、 ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を築き、 歩みを共にするための活動に取り組んでいます



当社は、経営理念にもあるように、人類文明の成長を支えるために事業を行い、寄与度を高めるために成長していくことを目指しています。その実現のためには、株主、お客さま、従業員、地域社会などのステークホルダーの皆さまと積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていくことが基礎になると考えています。その上で、地域社会を中心に、企業市民として社会に貢献する活動に取り組んでいます。

株主・投資家とのコミュニケーション

上場企業として説明責任を果たし、より信頼される企業を目指して、株主・投資家の皆さまへの適切な情報開示と、多角的なコミュニケーションを重要視しています。

株主総会

第66回定時株主総会も多くの株主の皆さまにご参加いただきました。事業報告では、昨年に引き続き、議長を務める社長より「設備投資・資金調達・配当について」「当社の課題と業績予想」などのプレゼンテーションがありました。株主の皆さまからは、当社の今後の成長に期待する多くの質問があり、社長と壇上の役員が丁寧に回答しました。



2016年6月24日、浦安ブライトンホテルにて開催された第66回定時株主総会

決算説明会

当社では、中間決算と本決算時の年2回、浅草橋本社の会議室において、機関投資家向け決算説明会を実施しています。2015年3月期中間決算より、決算説明会後、各事業部長からの事業説明と質疑応答の時間を設けています。多面的に多くの情報をお伝えすることで、当社のことをよりご理解いただけるコミュニケーションを目指しています。



株主通信におけるアンケート実施

当社では、毎期末の株主通信において、株主の皆さまへアンケートを実施しています。皆さまから寄せられたご意見・ご要望は、トップマネジメントにフィードバックし、IR活動の参考にさせていただいております。

65期株主通信アンケート結果

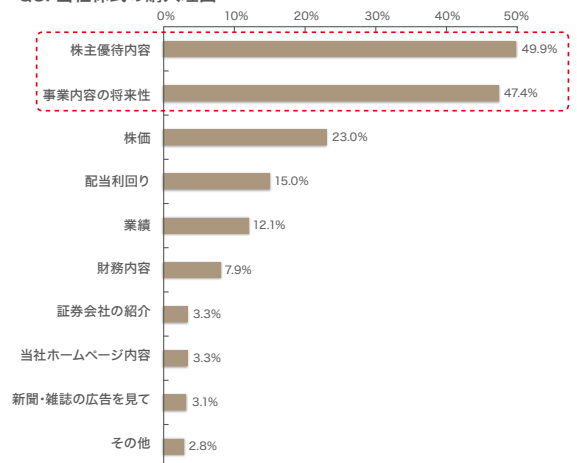
アンケート回答数：2,728件（うち有効回答数2,666件）以下、一部項目の結果についてご紹介させていただきます。

Q 当社株式の購入理由は何ですか？

「株式の購入理由」としては、「株主優待」「事業の将来性」が上位を占めています。

株主優待については、「株主・株式情報」の「株主優待」ページを、事業内容については「事業案内」や「IR ライブラリー」「決算説明会資料」ページをご覧ください。

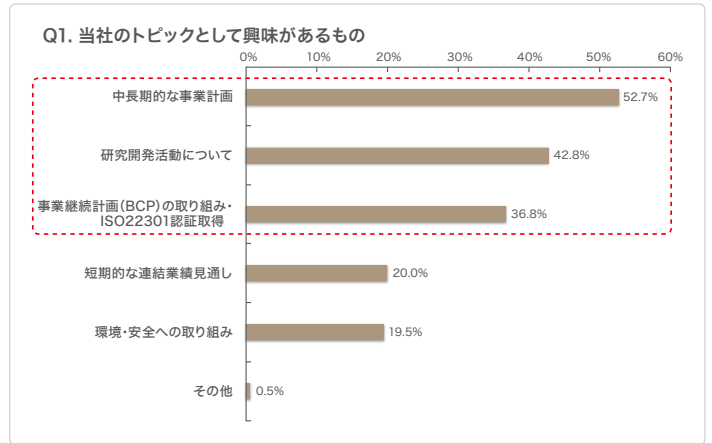
Q3. 当社株式の購入理由



株主・株式情報	http://www.toyogosei.co.jp/ir/info/
株主優待	http://www.toyogosei.co.jp/ir/info/priority.html
事業案内	http://www.toyogosei.co.jp/business/
IR ライブラリー	http://www.toyogosei.co.jp/ir/library/
決算説明会資料	http://www.toyogosei.co.jp/ir/library/material.html

Q 当社のトピックとして興味があるものは何ですか？

「興味があるトピック」の上位は「中長期的な事業計画」、「研究開発活動」、「BCPの取り組み」となりました。



翌期、66期株主通信では、トピックとして、新たに研究開発された「PXB-able™」について取り上げています。

トピックス②

新製品「Ready to use 3D新鮮ヒト肝細胞培養プレート「PXB-able™」を販売開始

2016年5月、株式会社フェニックスバイオと共同で開発した新製品「PXB-able™」の商業販売を開始しました。この製品は、信頼を徹底的に再現したモデルで、多数の肝臓の予備試験など、医薬品の安全性評価に幅広く使用されることが期待されています。

この製品は、水溶性感光材を使ってプレートの表面に特殊加工を施すことで、細胞を生体に近い状態で培養することができ、当社の3次元細胞培養プレート「Cell-able®」を応用しています。この細胞培養プレートに、フェニックスバイオ社によって安定的に生産されたマウス（厳格な品質管理のもと、肝細胞の70%以上が人の肝臓由来に置き換えられた「PXBマウス」）から採取した肝細胞を凍蔵した状態でお客様に提供しています。これ62社の技術を提供することで、「PXB-able™」は上記3つの特長を有しています。

特徴①: 高いですぐに使用可能 (Ready-to-use)
新鮮ヒト肝細胞を凍蔵した状態でお客様にお届けするため、直ちに試験を開始できます。

特徴②: 信頼を徹底的に再現
肝臓の機能を長期にわたって維持し、実験の再現性を多角的に検証できます。

特徴③: 細胞培養期間中も輸送可能
プレート表面に凍蔵しているため、細胞培養期間中も輸送できます。そのため、実験を遠く作業と評価測定を別施設で実施できます。

プレート上で培養される細胞のイメージ

PXB-able™ スフェアロイド (3次元的に細胞が集まったもの)の断面

製品開発大学 東京大学 薬学部 薬学基礎研究センター 高野 隆雄 氏



66期株主通信より。株主通信は、弊社Webサイト「IRライブラリー」に掲載しています。

地域社会とのコミュニケーションと社会貢献活動

東洋合成工業は、企業市民として社会に貢献し、地域社会と歩みを共にすることを重要と考えています。社会から信頼される企業を目指し、地域住民や団体との積極的なコミュニケーション活動に取り組んでいます。また、地域コミュニティを中心に、次世代を担う子ども達の成長を支援するため、職場体験などの機会を提供しています。

「東庄ふれあい祭り」に出店

千葉工場では、毎年、東庄町の笹川小学校で開催される「東庄ふれあいまつり」に出店しています。昨年2015年で連続12回目の参加となりました。当社のテントでは、東洋合成工業オリジナル風船や、ピエロによるバルーンアートのプレゼント、高性能自転車をはじめとした賞品を用意した抽選会、そして、当社が保有する消防自動車の展示などを行いました。地域住民の皆さまと信頼関係を築くためには、交流の機会を積み重ねることが大切です。千葉工場は、今年も引き続き参加を予定しています。

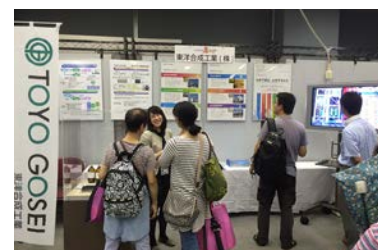


当社参加メンバー

出展ブースにて風船や抽選賞品を配布

「いちかわ産フェスタ」に出展

市川商工会議所主催の「第11回いちかわ産フェスタ」テクノモールに出展しました。より多くの地域の方々へ、当社を知ってもらい、さらには、安心感と信頼感をもっていただけるよう、今後もコミュニケーションを大切にしていきます。



当社出展ブース

東庄町地域住民向け落語会を開催

千葉工場と香料工場は、東庄町の地域住民とのふれあいの会として、昨年に引き続き落語会を開催しました。出演者として、真打には2014年 第69回文化庁芸術祭大賞を受賞された三遊亭遊馬氏にご公演いただきました。会場は、約90名の地元住民のお客様で大入りとなりました。



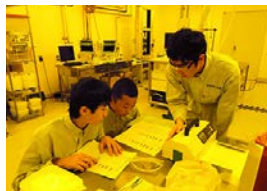
千葉工場長による冒頭の挨拶の様

仕事体験プログラムの提供

千葉工場と感光材研究所では、地域の小学生や中学生向けの仕事体験プログラムを提供しています。子供たちにとって、社会における各職種の役割を学び、将来の仕事や学校で学ぶことの意味について考える場になればと思っています。同時に、より地域の方々に信頼される企業を目指し、子供たちが学ぶ地域にある当社のことを知ってもらう機会にしたいと考えています。



研究所にて、印西市立印旛中学校の生徒が感光材を使った実習を体験



千葉工場にて、東庄町の町立東城小学校の生徒が工場で実際の作業を体験



地域清掃活動

千葉工場、香料工場、淡路工場では、毎年、夏季および冬期休暇前に工場周辺地域の清掃活動を行っています。今年は、千葉工場では夏季74名、冬季75名が、淡路工場では従業員の約半数の13名が参加しました。



千葉工場の夏季清掃活動





東洋合成工業では、社員がチャレンジングな仕事にやりがいを持って力を発揮できる環境の整備を図っています

東洋合成工業は、人材戦略プロジェクトを2015年6月からスタート。「社員がチャレンジングな仕事にやりがいを持って力を発揮し、人材育成を支える人材マネジメントシステム構築、運用の充実」に取り組んでいます。

人権・ダイバーシティ

人権への配慮

東洋合成工業では、国際基準に則った人権に対する配慮はCSR経営の基盤であると考え、世界各国・地域の文化、伝統、慣習の理解に努め、国際的基準を支持し人権を尊重することが重要であると考えています。

コンプライアンス研修等を実施するとともに、職務に関し、人種、性、宗教、信条、国籍、その他非合理的な理由により差別することや「セクシャルハラスメント」を明確に禁止行為として定め、その行為者に対しては懲戒する旨を定めています。

また、コンプライアンスに関する相談・申告窓口やセクシュアルハラスメント相談窓口を社内外に設け、人権侵害に関わる事態が発生した場合にも、その情報を迅速に把握して適切な対応を取ることができる体制を整えています。

ダイバーシティの推進

東洋合成工業では、各組織で多様な人材が活躍し、さまざまな視点やアイデアが取り込まれる環境の醸成を重要な経営戦略の一環と考えています。女性や高齢者、外国人の活躍推進、障がい者雇用に対する理解・支援など、さまざまな活動を展開・強化し、職場の活性化と組織力の向上に取り組んでいます。

女性の活躍を推進

女性社員の積極採用と職域の拡大、職場への定着を重点課題とし、柔軟な勤務制度の整備、より効率的な仕事をする職場環境整備の推進などを具体的課題として取り組んでいきます。

再雇用制度

社員のモチベーション向上と生活保障を目的に再雇用制度を実施してきました。これからも社員が安心して働くことができる会社を目指し、制度整備を進めています。

再雇用制度の新規雇用率推移

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
100%	0%	75%	100%	100%

人財への取り組み

東洋合成工業にとって、社員は最も重要な資産であると考えています。

経営理念、経営戦略の実現に向けて、創造力とバランス感覚のとれた人材を育成するべくさまざまな人材開発プログラムを整備し、社員一人ひとりが生き生きと働き、社員と会社がともに成長し続けるための環境づくりを目指しています。

求める人材像

- 安全と生産性の向上を両立するための改善に継続的に取り組める人材
- 能動的に顧客の要望を理解し、最適な製品提供のため行動できる人材
- 部門や拠点を横断する視座を持ち、目標達成のため周囲と協働できる人材
- 製品／サービスの付加価値や差別化にこだわり、新たなことにチャレンジできる人材
- 環境変化を的確にとらえ、役割を果たすために積極的に自己研鑽し、育て合える人材

人事基本方針

チャレンジ

チャレンジ精神を持って、困難を乗り越え革新的な成果を出した社員を評価し、正當に処遇していく

積極的な人材育成

自らのキャリア開発に向けて、積極的に自己研鑽に励む社員を支援する

オープン&フェア

客観的かつ公平で、高い納得性が得られるようオープンに推進する

安心して働ける環境

社員が安心して働ける職場環境・制度を整えていく

人事制度ポリシー

1. 等級ポリシー

- 管理職は役割責任を明確化する役割等級を、非管理職は能力伸長を重視する発揮能力をもとにした発揮能力等級を導入する
- 管理職は、組織を率い、人を育てるマネジメントコースと、高い専門性をもって貢献するプロフェッショナルコースを設ける
- 昇格基準やプロセスを具体化し、何ができれば昇格できるのかを社員に明示する

2. 評価ポリシー

- 評価は、成果だけでなく、プロセスや能力も評価する
- 制度はシンプル化することにより、フェアで、社員が理解しやすいものとし、適切な運用とコミュニケーションができる仕組みとし、徹底する
- 評価項目には等級別に社員に求められる行動（チャレンジ、協働、育成、安全や改善など）を盛り込む

3. 福利厚生ポリシー

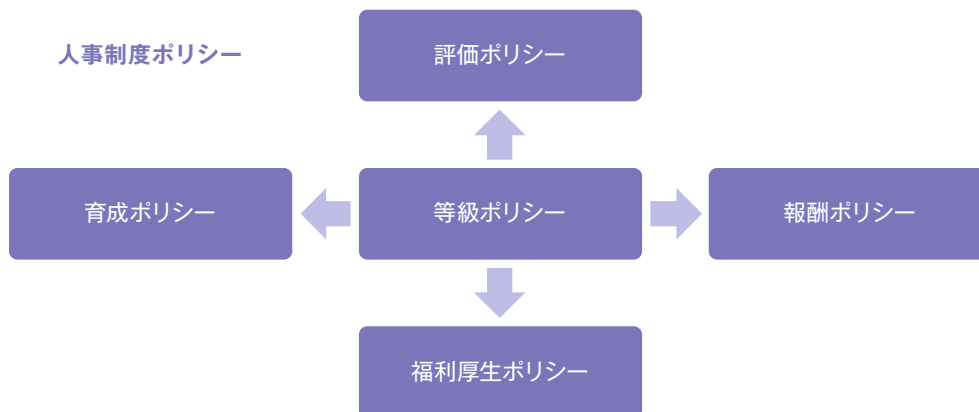
- チャレンジに取り組む社員が、安心して健康に働けるセーフティネットとなるよう、社員およびその家族へのサービスを提供する
- 社員のライフステージや多様なライフスタイルを尊重し、支援する公平な環境を提供する

4. 育成ポリシー

- 社員自己研さんを支援し、また、育てあう文化の醸成を図る
- 求められる人材像の実現を目指して、人材育成の体系、キャリアパスを社員に明示し、計画的な異動・配置・および評価制度の活用により、人材を育成する

5. 報酬ポリシー

- 報酬水準については、役割に応じた社内公平性と、外部競争力を確保する
- 異動・配置、業務対応の柔軟性を高める、処遇基盤を用意する



教育体系

求める人材像の計画的な育成を目指し、教育研修体系の再構築を進めています。

また、次世代リーダー育成強化のため「選抜型プログラム」を推進していきます。またそれ以外のプログラムに関してもこれまで以上に充実化を図り、社員自らが選択受講できるプログラムに関しては、受講しやすい仕組みづくりや研修体系のオープン化などを進めます。

新入社員研修（製造現場実習）

新入社員が入社し、1年間を経過するまで、指導担当者が日々の業務を通じて専門のスキルや、企業人としての視点・考え方・態度・行動基準を教えていきます。教育計画や、教育実施記録、3か月に一回の育成面談、自主保全実践教育、1年後には経営陣に対して成果発表を行って、育成しています。



新入社員製造現場実習のPDCAサイクル

イキイキ職場づくり（社員満足度向上）

東洋合成工業では、職場の状態の把握や管理職の意識改革に取り組むことで、多様な人材が活き活きと活躍できる活力ある職場づくりを目指しています。

組織診断

2013年から毎年、全社員に対して職場や社員の活性化に関する調査を行い、人事施策の効果等を定点観測し、今後の施策立案に活かしています。また、調査結果は、各部門に対してフィードバックし、実行中の施策の継続的な推進を図っています。

マネジメント強化

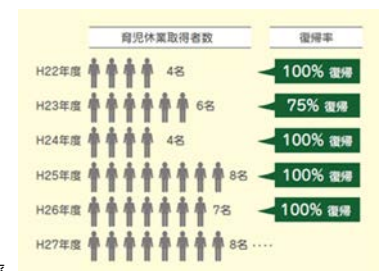
管理職を対象に組織目標の達成と育成を目的とした360度フィードバックツールの活用と、教育研修を組み合わせることで、マネジメントの向上を図っています。

ワーク・ライフ・バランス

東洋合成工業では「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向け、労働組合・従業員代表との定期的な労使協議を年間4回以上実施し、柔軟な勤務制度・環境の整備に取り組んでいます。

育児介護休業制度

社員の育児・介護をサポートする制度を導入しています。育児休業は、最大1歳6ヶ月になるまでの期間を取得できる制度としています。また、男性の育児参加を促進するため、男性の育児休業取得を推進しています。



育児休業取得者数と復帰率

働きやすい環境整備

東洋合成工業では、柔軟な働き方の実践と過重労働の防止および休暇取得推進に取り組んでいます。社員の家族構成に応じた「育児勤務」「介護勤務」など、柔軟かつメリハリのある働き方を目指し、勤務制度を導入しています。今後も、フレックスタイム制導入など、柔軟な働き方を推進していきます。

1ヶ月あたり平均残業時間と年次有給休暇取得率

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
残業時間	19時間	19時間	17.1時間	18.5時間
年休取得率	52.6%	51.9%	55.1%	48.3%

GLTD制度 (Group Long Term Disability)

経営方針の1つに「安全操業を最優先し、従業員、協力会社社員、地域住民などの関係者の安心できる操業環境を確保する」を掲げています。2015年度より、社員が病気やけがで休業を余儀なくされた場合、家族を含め経済的な不安を感じずに、安心して療養できるように、収入の一部を補償する団体長期障害所得補償制度 (GLTD制度) を導入しています。



東洋合成工業株式会社

<http://www.toyogosei.co.jp/>

お問合せ先

東洋合成工業株式会社

〒100-0053

東京都台東区浅草橋1丁目22番16号

ヒューリック浅草橋ビル8階

人材総務部 広報IR課

TEL : 03-5822-6170 (代表)